

ひまわり学級 算数科 学習指導案

日 時 令和元年10月3日(木) 5校時

児 童 葛巻町立五日市小学校

第2学年 男子1名 計1名

指導者 田 中 淳 子

1 単元名

第2学年
3つのかずのけいさん(くみあわせをかんがえよう 1年上)

2 単元について

本単元は、学習指導要領第1学年の内容「A 数と計算」(2)「加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。」のア「加法及び減法が用いられる場合について知ること。」イ「1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。」「D 数量関係」(1)「加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。」に位置付けられている。

本単元では、「20までの数範囲における繰り上がり、繰り下がりのない場合の加減計算の仕方についての学習を基にして、3つの数についても、それを1つの式に表したり、その計算をしたりできるようにすること。」をねらいとしている。

3 児童の実態

本学級の児童は、就学前に医療機関等で行った検査により自閉症と診断され、本校の特別支援学級に入学した。入学当初は、文字を読んだり書いたりすることを苦手としていたが、乗り物など好きな物を用いたり鉛筆を持つための補助具を使用したりして興味をもってもらい、徐々に取り組みようになってきた。

児童はこれまでに、40までの数について、個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを、点つなぎプリントやドリル、ブロックを並べる活動などを通して学習してきた。また、ブロック操作をしながら、20までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算の練習をしてきた。しかし、日常生活の中で10ずつにまとめて数えること、数を分けたり合わせたりすることなどを行っている様子を見ることはあまりない。

4 指導に当たって

本単元を指導するに当たって、児童の発達の特徴を考慮し、問題場面を捉えさせる際は、教科書の挿絵を時系列に沿って紙芝居のように一枚ずつ順番に提示し、数量が増減する場面を捉えやすくしたい。そして、お話をさせながらブロック操作をさせ、問題場面に合った操作ができていないかをしっかり確かめながら指導を進めたい。

また、3つの数の加減や加減混合計算の仕方の理解・技能に焦点化した指導ではなく、児童が興味をもって活動に取り組んだり、日常の生活場面の中で生かしたりできるような活動を多く取り入れた指導をしていきたい。

5 単元の目標と指導計画

(1) 単元の目標

目 標	3つの数の加減計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにすると共に、それらを用いることができるようにする。
関意態	3つの数の加減計算の場面を1つの式に表すことのよさに気付く。
考え方	2つの数の加法や減法を基に、3つの数の計算の仕方を考え、表現することができる。
技 能	3つの数の加減計算の場面を1つの式に表し、その計算が確実にできる。
知・理	2つの数の加減計算を基に、3つの数の加減計算ができることを理解する。

(2) 指導計画

時	全8時間
1	教科書 p.8 3 の絵を見て、猫の数をブロック操作で表し、全部の数を求める操作であることに気付かせる
2	3つの数の加法の場面を1つの式に表すことを知る 3つの数の加法計算をブロック操作を行いながら計算する
3	教科書 p.8 4 の絵を見て、猫の数をブロック操作で表し、残りの数を求める操作であることに気付かせる
4	3つの数の減法の場面を1つの式に表すことを知る 3つの数の減法計算をブロック操作を行いながら計算する
5	教科書 p.8 5 の絵を見て、猫の数をブロック操作で表し、加減混合の操作であることに気付かせる
6	3つの数の加減混合計算の場面を1つの式に表すことを知る 3つの数の加減混合計算の仕方をブロック操作を行いながら計算する
7	3種類のカードから、合わせて10枚になるようにカードを選ぶ 選んだカードの数を $\square + \square + \square = 10$ になる式に表す。
8 本時	3種類のものから、合わせて10個になるようにものを選ぶ 選んだものの数を $\square + \square + \square = 10$ になる式に表す 袋に詰めて、プレゼントを作る

6 本時の指導

(1) 内容

目標	答えが10になる3つの数の組み合わせを、実際に3種類のを組み合わせながら考える活動を通して、3つの数の組み合わせについての理解を深める。
指導に当たって	導入では、教師が組み合わせたカードを見て、答えは同じでも組み合わせはいろいろなことを確かめる。その後、3種類の具体物を示し、「3種類のものから、それぞれ選んで、全部で10個のまとまりにできるかな。」と問い、組み合わせて10個のまとまりを作るという見通しをもたせて課題設定へとつなげた。 展開では、3種類のを組み合わせて10個のまとまりを作り、その組み合わせを確かめる際に「組み合わせが違って、どれも10個ずつになっているね。」と問い、全部10個のまとまりになっていることに着目させ、組み合わせがたくさんあることに気付くようにさせたい。 終末の評価問題では、教師が作った式に合わせて具体物を並べる活動を行い、10個のまとまりを作る組み合わせはいろいろあることを確かめ、本時のねらいにせまりたい。
評価規準	図 3種類のを組み合わせて、和が10になる数の組み合わせを複数考えることができる。

(2) 展開

段階	○学習活動と学習内容 ・予想される児童の反応	指導・支援上の留意点と評価 (◇) 研究の手立て (1) (2) (3)
導入 10分	<p>1 ウォーミングアップ</p> <p>○教師が組み合わせたカードを見て、式を言う</p> <p>2 問題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">組み合わせる3種類のものを見せる。</div> <p>・今日はこれを組み合わせるのか</p> <p>3 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">くみあわせて、10このまとまりにしよう。</div> <p>・表を使って並べる</p>	<p>・答えが同じ数でも、数の組み合わせは、いろいろあることを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(1) -①</p> <p>「3種類のものから、それぞれ選んで、全部で10個のまとまりにできるかな。」と問い、3種類のを組み合わせて、10個のまとまりを作るとい見通しをもたせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(1) -②</p> <p>「どのように組み合わせたら、10個のまとまりが作れそうですか。」と問い、モデルを示して活動を確認させる。</p> </div>
展開 15分	<p>4 解決を図る</p> <p>○3種類のを組み合わせて10のまとまりを作る</p> <p>・3と4と3で10</p> <p>・4と2と4で10</p> <p>○できたまとまりを確かめる</p> <p>・どれも10個のまとまりになったよ</p> <p>○板書と照らし合わせながら、数の組み合わせを確かめる</p>	<p>・3種類のを必ず全種類入れることを再度確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(1) -①</p> <p>「組み合わせが違って、どれも10個ずつになっているね。」と問い、全部10個のまとまりになっていることに着目させ、組み合わせがたくさんあることに気付くようにさせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(1) -②</p> <p>具体物を寄せ合わせる操作と結び付けて、「このような動かし方は何算になるかな。」と問い、たし算の式になりそうなことに気付くようにさせる。</p> </div>
終末 20分	<p>5 学習を振り返る</p> <p>○学習を振り返り、まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">10このまとまりは、いろいろなくみあわせでつくることができます。</div> <p>○評価問題に取り組む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">教師が作った□+□+□=10の式に合わせて、3種類のを選んで並べる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(2) -①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3種類のを組み合わせ方の理由を説明している。</div> <p>○本時の学習を振り返り、プレゼントを作る</p> <p>・10個ずつ袋に入れよう</p> <p>・みんなに配れてよかった</p>	<p>・板書を基に本時の学習を振り返り、おさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(2) -②</p> <p>教師が作った□+□+□=10の式に合わせて並べたものを見て、どの組み合わせも答えは10になることを確かめる。</p> </div> <p>◇3種類のを組み合わせて、和が10になる数の組み合わせを複数考えることができる。【数学的な考え方】(観察・発言)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(3) -③</p> <p>3種類のを合わせて10個にしたものを袋に詰めてプレゼントを作り、配る。</p> </div>

7 板書計画

くみあわせて、10このまとまりにしよう。

10このまとまりは、いろいろなくみあわせでつくる
ことができる。

あわせて10こにする

もの もの もの

ほかのくみあわせもつくってみよう。

$$2 + 4 + 4 = 10$$

$$5 + 3 + 2 = 10$$

$$2 + 5 + 3 = 10$$

3 と 4 と 3 で 10 } みんな

4 と 2 と 4 で 10 } 10

しき 3 + 4 + 3 = 10